



からしだね

2022年10月号
(585号)

キリストの受難 カトリック池田教会

主任： 中村克徳司祭

住所： 〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL： 072-751-2400 FAX： 072-753-4624

URL(ホームページ)： <http://catholic-ikeda.sakura.ne.jp/church/index.htm>



九月二十五日に主任司祭に就任された中村克徳神父は十月二日の年間第二十七主日のミサを司式された。

本号の記事の主題など

巻頭言 中村克徳神父

ノイ・プラザ神父の最後のミサと送別会

10月のガラスケースのみ言葉とその解説

平和旬間に畠基幸神父様の講話を聴く

「新しい式次第」によるミサについて

みんなの談話室

キリストとステファノ

宝塚黙想の家からのお知らせ

巻頭言

はじめまして、そしてたいたいま！

中村克徳司祭

池田教会の皆様、この度主任司祭に任命された中村神父です。初めての方もおられるでしょうから、簡単に自己紹介をさせていただきます。

生まれは北海道の道北地方です。大自然に囲まれた北の大地で過ごしたこともあり、のんびりとした性格で、てきぱきと行動するのが苦手なため、周りの人に気を揉ませることが少なからずあります。

25歳の時に東京の教会にて、主の降誕祭の御ミサで受洗しました。札幌、東京での会社勤めを経て、33歳で御受難修道会に入会し、司祭に叙階されたのは41歳です。叙階後は、東京教区の教会で4年ほど働いた後、東京修道院（みことばの家）で養成担当

と院長を務め、2012年から福岡にある黙想の家の責任者として赴任いたしました。松本神父様の病気療養に伴い、2016年に池田・日生両教会の共同宣教司牧のメンバーとして、この地に異動してきた次第です。

当初は畠神父様と共に池田教会でも主日の御ミサを担当していましたが、ノイ神父様の池田教会主任司祭への就任を機に、2018年からは日生中央教会の主任司祭となり、この度、ノイ神父様の帰国に対応する形で、9月26日から池田教会の主任司祭を務めることとなりました。

この数年は池田教会の司祭館に住んでいながら、日曜日に池田教会でお会いする機会がなく、子供たちのお泊り会や勉強会もコロナ対策のために一時休止状態となったため、週日の御ミサに来られる方以外は直接にお話しすることはありませんでした。この期間に新しく洗礼を受けられた方や転入で教会の一員となった方もおられることでしょう。皆様にお会いできるのを楽しみにしています。

前任者のノイ神父様が素晴らしい司牧をしてくださいましたので、それを受け継ぐ形で皆様と共に力を合わせて新しい池田教会を作り上げていきたいと思っています。これから御ミサや評議会、様々な委員会で顔を合わせるようになりますが、皆様、どうぞよろしくお願いたします。



ノノイ・プラザ神父の最後のミサと送別会 年間第26主日ミサ (9月25日)

9月25日の年間第26主日ミサは、ノノイ神父様が主任司祭として最後のミサを司式なさる日となった。当日の福音は、イエス様がファリサイ派の人々に、金持ちと貧しいラザロを例に引いて、教えを説かれる箇所だった。(ルカ16:19~31) ノノイ神父様は、この金持ちのように、自分の悩みや痛みだけを思い、他人の苦しみには無関心ではないだろうか、と私たちに問いかけられた。私たちはたくさんの恵みを神さまから頂いているのだから、助けを求めている人に援助の手を差し伸べ、微笑みかけ、笑顔を向けること、それが神さまの永遠の祝福に至る道なのです、と説かれた。

共同祈願では、ノノイ神父様の信仰と愛にわたしたちが触れられたことを感謝するとともに、帰国なさったあとも神のいつくしみのうちに末永くご活躍なさいますように、と祈った。

聖体拝領の列が続く間、「アメージング・グレイス」のきよらかな独唱やオルガン演奏が流れた。そのあと、評議会議長の感謝の言葉があり、共同司式者である畠神父様からもご受難会代表として、売布、みことばの家、池田教会での十年間にわたるご奉仕にお礼を申し上げます、との言葉があった。さらにノノイ神父様の日本語習得や主任司祭として働くためのなみなみならない努力に触れ、明るく優しい性格をたたえ、まさに神の愛の宣教師であり、そんなノノイ神父様を日本に遣わして下さった



神に感謝しますと結ばれた。

そのあとプレゼントの贈呈があり、花束、信徒からの感謝の寄せ書き、からしだね9・17号、日曜学校からの記念アルバム、記念品などが渡された。ノノイ神父様からは感謝の言葉が読み上げられた。それはからしだね9・17号にも掲載されている「さよならsayonara」の後半部分である。派遣の祝福は、歌いながら行われた。

そして最後に、ノノイ神父様から英語の歌のプレゼントがあった。「Constant Change」と「The Way We Were」の二曲を情緒たっぷりに心をこめて歌われた。

聖堂を出たあと、信徒全員での写真撮影、コロナ感染を防ぐためパック飲料だけの懇談会と続き、別離の悲しみをとめないながらも、恵みにみちた時間が終わりを告げた。



10月のガラスケースのみ言葉
恐れるな、わたしはあなたと共にいる

イザヤ43：1b～2a

福音宣教委員会撰

10月のみ言葉についての解説

中村克徳 神父

現代社会に生きるわたしたちにとって、最も恐れを抱かせるものはなんでしょう。日本においては地震や大規模な水害などの自然災害と呼ばれる出来事が最初に挙げられるかも知れません。あるいは終わる気配のない新型コロナウイルスの蔓延でしょうか。その他にも、経済の低迷や円安、食料や燃料の高騰、世界を巻き込む戦争の気配など、いくつも数え上げることができます。わたしたちは常に安寧な生活を送りたいと願っていますが、わたしたちを取り巻く環境や世界情勢は、常に不安を呼び起こすものとして目の前に置かれています。

預言者イザヤが活躍した時代のイスラエルは、現代とは問題点が異なるとはいえ、度重なる危機に直面しなければならない状況にありました。当時のイスラエルは主に10部族からなる北イスラエル王国と、2部族による南ユダ王国とに分かれていましたが、紀元前722年に北イスラエル王国がアッシリア帝国によって滅ぼされ、ほぼ全住民が捕囚として連れ去られる出来事に見舞われました。彼らが滅亡に至る最たる要因は、「異教の神を拝んではならない」という信仰の根幹を揺るがす背教の罪であったのです。神から遣わされた預言者エリア、エリシャ、ホセアらによる、神への回心を促す度重なる警告も空しく、彼らは預言者たちに耳を傾けようとしなかったのです。住民が連れ去られた後には、他の民族が強制的に移住させられました。

預言者イザヤは、これと同様の出来事が起こることを、南ユダ王国の人々に告げ知らせました。ダビデ王から続く血族が統治する南ユダ王国もまた、同じ轍を踏み異教の神を礼拝し、供物を捧げていたからです。イザヤの警告も及ばず、強大な武力をもってアッシリア帝国を滅ぼし、領地拡大に燃えていたバビロニア帝国によって、南ユダ王国もまた紀元前586年に滅亡へと追い込まれてしまいます。それはイザヤが活動を終えてから、約1世紀を経た時のことでした。こうして、全住民とはいかずとも、国を治める主だった人々一万余名が遠く離れたバビロンへと捕囚として引かれていったのです。

神から選ばれた民が、主である神を裏切り続けた結末は悲惨なものですが、イザヤは大きな希望をも預言していました。「恐れるな、わたしはあなたを贖う。あなたはわたしのもの。わたしはあなたの名を呼ぶ。水の中を通るときも、わたしはあなたと共にいる」（イザヤ43章1b～2a）。イザヤは、神が必ずイスラエルの民を救い、約束の地へと連れ戻すことを書き残していたのです。この預言は紀元前538年に、キュロスという王様に率いられたペルシャ帝国によって、バビロニア王国が滅ぼされることで実現します。翌年の発布された民族解放令により、イスラエルの地への帰国が始まり、彼らは神殿の再建と復興の道を歩み始めたのです。

「恐れるな、わたしはあなたと共にいる」。この神の言葉は、現代のわたしたちに呼び掛けられたメッセージでもあります。イエス様の教えを真摯に受け止め、いかなる状況に襲われたとしても、信仰をもって神が与えてくださる恵みと救いを待ち望んでいきましょう。

平和旬間に畠基幸神父様の講話を聴く

平和旬間の取り組みとして池田教会では8月7日のミサ後に畠基幸神父様による講話を聴きました。畠神父様にはミャンマーでの滞在経験と今のミャンマーについて思っておられることを話して頂きました。

以下 参加者の感想の一部を報告します。

- ・非常に興味深いお話でした。講話というより実際経験された話で興味深かった。
- ・神父様が現地におられたからこそ出来る貴重なお話しが聞けました。
- ・大陸という「場」そこはどこであれ長い歴史の毒牙にかかっていると感じました。
- ・近くて遠い国の様に思います。
- ・神のお求めになる平和に至るには「問題解決の力」「知恵」が祈りと共に必要なの



だと思いました。

- ・神父様方の強い信念と努力に感動しています。
- ・ミャンマーのカトリックや少数民族の大変さがわかって胸が痛みます。
- ・暴力と戦争の前にとても無力感を感じます。
- ・お祈りしますがそれ以外にどんな助けをしたらいいかわかりません。

社会活動委員会

「新しい式次第」によるミサについて

典礼委員会

11月27日から「新しい式次第」によるミサが始まります。が、これはミサが変わるのではありません。「ミサの式次第と奉献」の表現が変わるところがある、だけです。表現が変わる部分があるということです。

今のミサの式次第は、1970年に発行され、1975年、2002年と改訂された『ローマ・ミサ典礼書』のラテン語規範版の日本語版ですが、全訳ではなかったため、バチカンからは暫定的に認められたもの、仮に認められたものでした。

2001年にバチカンからより忠実に翻訳することを求められたこともあり、カトリック中央協議会は改訂作業をすすめてラテン語規範版に忠実な日本語訳の典礼の式文をつくり、2021年にバチカンから認証を受けることができ、2022年秋から新しい式次第でミサを実施することになりました。

新しい「ミサの式次第」の各家庭で使って頂くための冊子をレターケースに入れました。これは、各家庭で保管し、日曜のミサに持参して頂く必要はありません。一度目を通して頂いて、ミサの表現がどう変わるのかを確認下さい。池田教会におけるミサは、聖堂内に置いてある「祈りと歌」に綴じ込んでいる新しい「ミサの式次第」をみながらうけることとなります。

「新しい式次第」によるミサが始まるのに備え、10月9日から11月20日までの日曜日のミサ終了後、新しい「ミサの式次第」の練習を行いますので、皆さんご参加下さい。毎回10分ほどの予定です。

みんなの談話室

キリストとステファノ アウグスティヌスの『説教』から

Y.K.

ご無沙汰しております。みなさんお元気でしょうか。私は大学院の宗教学研究室でアウグスティヌスの研究をしています。とはいえ、アウグスティヌスの哲学に正面から挑むほどの実力はないので、そこは大学で哲学を学んでいる三島くんに託して、教会のおじちゃんおばちゃんに囲まれ、日々頭を抱えながら働きまわる司牧者アウグスティヌスの姿に迫ろうと試みております。

アウグスティヌスの著作を読んでいると、さまざまな点で今の教会との共通点を感じます。例えば現在も復活の主日から聖霊降臨祭まで使徒行伝が読まれますが、アウグスティヌスの『説教』315にもこのことが書かれています。またアウグスティヌスは「普遍教会は死者のために名を唱えることはないが祈りを捧げる（『死者への配慮』4.6）」と述べていますが、現在も奉献文の中で特定の意向がなくても必ず死者の祈りが唱えられます。研究はこういった小さな驚きと発見の連続です。

今回は、12月26日が記念日の聖ステファノについての説教を紹介します。

ステファノに倣わなければなりません、特に敵を愛することにおいて。私たちは主の誕生を昨日祝いましたが、今日は〔主の〕僕の誕生を祝います。それによって勿体無くも主がお生まれになられた主の誕生を私たちは祝いましたが、〔今日は〕それによって冠を受けた僕の誕生を私たちは祝います。それによって

私たちの肉の衣を受け取られた主の誕生を私たちは祝いましたが、〔今日は〕それによってその肉の衣を打ち捨てた僕の誕生を祝います。それによって私たちと似たものとなられた主の誕生を私たちは祝いましたが、〔今日は〕それによってキリストの隣人となった僕の誕生を祝います。というのも、キリストはお生まれになることによってステファノに、同様にステファノは死ぬことによってキリストに結ばれるものとなったからです。（『説教』314.1）

私の拙い訳文ではうまく伝わりませんが、ここでのキリストとステファノの対比は見事なものです。キリストの誕生（受肉）とステファノの誕生（天の国での誕生＝殉教）。受肉のへりくだりによってキリストは私たちと同じ姿をとられ、ステファノは殉教によって主の受難に倣うものになる。神と人との関係は一方通行ではなく双方向の交わりであることを思い起こさせてくれます。

しかしこれだけではありません。アウグスティヌスも昨日クリスマスを祝い、今日ステファノの記念日を祝うという私たちと同じ典礼暦の中に生きていたことがわかります。典礼暦を味わうことは先立つ聖人たちを思い起こし、過去と未来の信仰者と共に歩むことを意味します。こういったところにも、見える形として聖徒の交わりがあるのかもしれない。



教会中庭の大樹などの 剪定会のお知らせ

乾燥した冬を前に、毎年実施されるモチノキやイヌマキなどの大樹などの新枝や葉の剪定を行います。

シルバー・センターの職人さんが落とす新枝や葉を袋詰めする軽作業ができる方のご参加をお願い致します。

日は決まり次第掲示しますが火曜日か水曜日の10時から13時を交渉中です。

総務委員会

編集後記

ようやく夏が過ぎ、笑顔のノノイ神父様とのお別れも経験した。秋とともに中村神父様をお迎えして、新しい希望と喜びが始まる。中村神父様はどのように池田教会とその信徒たちを率いてくださるのだろうか。なるべく中村神父様にお声をかけ、中村神父様のお考えを知り、また自分たちのことも知ってもらって、中村神父様のめざす、教会の在り方や信徒の進むべき道に、そして神への道に近づけるようにしたいと思う。

ソフィー

宝塚黙想の家からのお知らせ

- 日帰り黙想会 10:00~15:30
10月20日(木) 指導: 染野 治雄 神父
10月28日(金) 指導: 山内 十束 神父
- 一泊黙想会
10月28日(金) 17:00~29日(土) 15:30
指導: 染野 治雄 神父
- カトリック教会のカテキズム
10月12日(水) 10:00 ~ 12:00
10月26日(水) 10:00 ~ 12:00
指導: 染野 治雄 神父
- 聖地エルサレムを学ぶ
10月20日(木) 10:00~12:00
指導: 笹田六合豊 修道士
- 聖書の基本
10月 5日(水) 10:00 ~ 12:00
10月19日(水) 10:00 ~ 12:00
指導: 山内 十束 神父

上記の各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。☎ 0797 (84) 3111